



# 教会だより ミルトス

ミルトスは、水がなくても育つ強い木であることから不死のイメージがあり、祝福と繁栄の象徴の木と言われている。

日本バプテスト教会連合  
八千代キリスト教会  
牧師 小林政和  
八千代市大和田新田 94-77  
Tel:047-450-1536・Fax:047-473-3925  
Eメール: [gpnng725@gmail.com](mailto:gpnng725@gmail.com)  
URL/<https://yachiyokyokai.org>  
郵便振替・00190-4-554373

## 今年のみ言葉 ローマ人への手紙 8章 34節

「だれが、私たちを罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしていただくのです。」

どなたでも ご自由にお入り下さい。お待ちしております。  
日曜日・午前10時30分・礼拝  
水曜日・午後1時30分・祈禱会

## 「神の時間」

牧師 小林 政和



科学的な時間の基準は、1967年前までは地球の自転と公転周期をもとに測定されていました。しかし問題が浮上して、地球は歴史が下るにつれて軌道上で減速しており、科学者たちは天文時の「秒」が以前より長くなっていることを発見しました。キリストの時代から累積した物理的に測定した時間とのズレは3時間にもなるそうです。この地上に時間を持ち込んだのは神です。天上は永遠の世界で、時間があるのかどうかよくわかりませんが、地上では時間と共に進むように作られ、事を行うのに時間は過ぎてゆきます。終末があり、再臨が来ます。地上では時間制限を設けられたのです。すべての被造物は終末に向かっていきます。やがてこの地上に再びイエスが入って来てくださる。イエスは地上に起きたことのすべてを知っておられ、そして死んだ人の主を信じる者全員が復活のからだを頂きます。その時私たちが生きていれば空中で再会できます。人の人生のすべてを収録している記録動画が存在し、A地点で起きたことは年代ごとの時間差をつけて再起動できるものがあるとすれば、見たいときに再生でき、正確な過去を見ることができるかもしれません。Ⅱペテロ 3・8—9には『主のみ前では、1日は千年のようであり、千年は1日のようです。主はある人たちは遅いと考えているようですが、主は約束の実現を遅らせておられるのではありません。あなた方のために忍耐しておられるのです。誰も滅びることなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです』とあります。

神はご自分の目的のために、ご自分の時間軸を動かされます。神の時は神の愛から派生します。神は愛ゆえに時間を変えることもできます。再臨の時に復活のからだをもらって、同時代に生きていた人たち同士が再会することは大きな喜びでしょう。家族の面談はなおさらのことでしょう。神の時は愛する者のために曲げられます。時間がない時に、主に祈ればピッタリと間に合うことがあります。そのように神は私たちを救うためには時間をのばす、または縮めることもあるのです。

## 3月3日(火) 野崎宅家庭集会

野崎姉宅が八千代市内に移転してきてからは、教会が近くなり車で15分程です。讚美歌を歌い、小林牧師のメッセージを聞き、お祈りをしました。実りある豊かな時を過ごすことが出来ました。感謝です。



## 近隣の早咲きの桜

(3月1日撮影)  
下橋



## 3月20日(金)「和田健治師の召天記念会」

3月20日に聖歌総合版の編集・著者である和田健治師が、2025年3月5日に90歳で召天されました。1年記念会を御茶ノ水キリスト教会館で開きました。聖歌を愛する方々と共に、故人の作曲した聖歌を故人の在りし日を偲んで数曲大声で歌いました。所属教会の練馬バプテスト教会からの姉妹方をはじめ聖歌委員会の方々合わせて約50人が集われ、和田師の思い出に花を咲かせました。(小林)



## 3月8日(日)運営委員会

運営委員会は毎月行っています。会計および出席者数報告・今までの行事・今後のスケジュール・課題など、話し合われました。今回は、年度末なので、1年間の反省と、4月の総会などがテーマになりました。この9月は、当教会の創立30周年になるので、記念誌「ヤコブの梯子(第8号)」発行についての打ち合わせもありました。(下橋)

## メンバー紹介

## 「聖なるサクスの癒い」

境 幸子



2年前の10月に、真っ青な秋晴れのもとで、勝田台キリスト教会に於いて武間恵洋師によるサクスクンサートが開催されました。閑静なエントランスの2階が礼拝堂も兼ねた当日のコンサートホールでした。この時、著名音響設計者・豊田泰久氏の設計の一部を垣間見る思いで、高い天井に広々としたホールは、サクスクンサートに相応しい音色がかもし出されるのではと、ワクワクした思いでした。

私は30年前の50代の頃に、アメリカ・シアトル出身のジャズのサクスクンサート奏者、ケニー・Gのソプラノ・アルト・テナーサクスクンサートの音色に魅せられて、CDをよく聴いておりました。そして今回、生のサクスクンサート演奏を聴ける機会を与えられ、そのコンサートに臨みました。

武間師は、家系の繋がりでアメリカ・オレゴン州に農業の勉強のため渡米し、その時、聖書とサクスクンサートとの出会いがあり、それらを学び終えて、帰国後、花栽培農業を営み、牧師に携わり、牧師就任後、サクスクンサートによる伝道のご活躍をされております。武間師の、このような経歴から神との出会い、花栽培の美を育み、サクスクンサートを奏でるお姿は、主に叶った天性の音色がかもし出されているのだと思いました。

最後の演奏で、主の祈りの聖歌に於いて、木の十字架を背後に、その頭上の天窗から青い空と白い雲を臨み、その下での、聖なるテナーサクスクンサートの演奏、それらのコントラストが、とても感動的な主を賛美するフィナーレでした。

## 教会及び連合のスケジュール(予定)

- 01月01日(木) 新年礼拝
- 01月11日(日) 新年合同礼拝および成人式
- 02月18日(水)～4月4日(土) レント(受難節)
- 02月24日(火)～26日(木) 教職セミナー(於:小田原市・天成園)
- 03月19日(木) 横田早紀江姉を囲む祈り会
- 03月20日(金) 和田健治兄召天記念会
- 04月01日(水) 洗足式
- 04月05日(日) イースター(復活祭)
- 04月12日(日) 運営委員会
- 04月19日(日) 教会総会
- 04月29日(水) 連合スプリングセミナー
- 09月20日(日) 創立30周年記念礼拝

## 祈って下さい

- 1) 上福岡教会の渋谷昌史師は、抗がん剤治療から在宅による緩和ケアに切り替えられました
- 2) 三郷教会の大澤美保夫人の、抗がん剤治療が副作用なく用いられ、健康が回復できますように
- 3) ロシア軍に侵攻されているウクライナに、平和が回復するように
- 4) アメリカ・イスラエルとイランの間での戦争が終結し、ホルムズ海峡で安全運航ができますように
- 5) 横田めぐみさんはじめ拉致被害者の方々が、早く家族のもとに帰れるように
- 6) 求道者が救われるように、特に奥田順一兄、池田英穂兄が受洗できるように
- 7) 洗礼を受けられた「八木明子」姉の信仰の成長のために
- 8) 成田のグループ・ホームにいる安藤真大兄の歩行機能が、リハビリできますように

## 3分間講座

## 「神の幻を見たエゼキエル」

紀元前597年、南ユダヤの国民は新バビロニアの王ネブカドネザル2世の侵攻に敗れ、バビロンに強制連行されてしまいます。祭司のエゼキエルも一緒です。そして5年がたち、彼はケバル川のほとりで不思議な夢を見ます。北から風が吹き、雲を巻き起こし、まぶしい光を発する奇怪な4つの生き物が現れます。見た目には人間のようでありながら、動物の顔と翼を持っています。頭上の大空には神が座する光輝く玉座がありました。神はエゼキエルに「あなたを恥知らずなイスラエルの民のもとに遣わす。彼らは先祖たちと同様に神に背き、いまや偶像を信仰し乱行を続ける民となった」と語りかけたのです(エゼキエル書2:3-4)。召命でエゼキエルは預言者となります。

その頃、南ユダ王国の神殿はまだ破壊されずに残り、人々はエルサレムへの帰還は近いとの希望を捨ててはいませんでした。エゼキエルは自分たちが犯してきた罪を悔い改め、神のもとに立ち返るよう懸命に伝えますが、簡単には聞き入れられません。やがて敵の攻撃で、国民の拠り所であった神殿破壊の知らせを聞かされます。罪を糾弾しながらも、苦難の時に捕囚者に希望を語り続けるのが預言者の使命です。次第に人々は神の言葉を受け入れ、罪を悔い改めるようになりました。またエゼキエルは別の夢の中で、神から無数の枯れた骨が散らばった谷間に連れてゆかれます。そこで神はエゼキエルに「骨(捕囚の民を指す)に向かい、息が吹き込まれるとあなた方は生き返る。あなた方はわたしが主であることを知る」と預言するようになります(同書 37:5-6)。彼がそれに従うと骨が動き出し、肉と皮が付き生き返ったのです(黒人霊歌ドライボーンズ参照)。

このように神は、エゼキエルを通してイスラエル人を激励し、慈しみの心をもって、捕囚の身から再び望郷の地に戻れることを約束してくれたのです。(池田)



「エゼキエルの幻視」 ラファ エロ・サンティ作 1518年

編集後記: 日一日と日が伸びてきました。3月20日の春分の日を境に夜間より日中の時間が長くなってきました。電波時計が普及して我々の生活は1秒の誤差もなく、営まれています。日常の生活時間は変わりません。日本では、江戸時代までは、日の出から1日が始まり、日没で終わりました。働く時間も当然日中だけでした。冬と夏では、日中の時間が4時間以上も違い、1日を12刻(現在の24時間)とし、昼間と夜間をそれぞれ6分割していたので、1刻(2時間)の長さが違っていました。今日では考えられない、時間の観念でした。それだけ日々の暮らし方がおおらかだったようです。せわしない現代の私達も、せめてその気分だけでも真似てみたいものです。神さまのご庇護とご指導によって。(下橋)